

瀬峡と瀬ホテル (Web)

奈良、三重、和歌山の 3 県の県境にまたがる瀬峡は、全長 31km にわたる北山川流域です。瀬峡の岩盤は、約 7 千万年前に海から隆起した堆積岩の層です。その後、岩盤は溶岩に熱されて硬化し、浸食されにくくなりました。非常に長い年月にわたって、この硬い岩盤は北上川に川底を深く削らせたため、幅広の谷ではなく険しい V 字型の峡谷が形成されました。

600 年以上もの間、北山川は筏師が伐採された材木を下流へと運ぶために利用されました。(筏師たちが材木を運んだ後、家まで歩いて帰るのに使った「筏師の道」の一部は、現在ハイキングコースとして整備されています。) つい 2、30 年ほど前まで、この地域は道もなく、孤立していて、川が唯一の交通経路でした。しかし、19 世紀後半にこの峡谷の切り立った崖や奇岩の数々、エメラルド色の水の評判が広まると、観光客が訪れるようになり、瀬峡は 1936 年に吉野熊野国立公園の一部に指定されました。現在では、伝統的な筏からモーターボートまで、さまざまな河川交通手段で峡谷の景観を楽しむことができます。

瀬ホテルは、瀬峡でもとりわけ景色の良い場所にあります。百年以上前、疲れた筏師たちが泊まるための旅館として建てられましたが、やがて観光業が栄えると、観光客が宿泊するようになりました。一時は、この地域に 5 つほどの宿が営業していました。三世代続いた瀬ホテルは 2004 年に廃業し

ました。現在は、簡単な食事と峡谷を一望する景色、そして百年前の創業当時を偲ばせるノスタルジックな雰囲気を楽しめるカフェとして営業しています。建物内には、川が材木の運搬と人々の移動のための唯一の交通経路であった時代の品々が飾られています。瀬ホテルは奈良県の文化財に指定されています。